

市町村訪問～大津町～

「現在は女性の活躍推進セミナーや小中学生向けの男女共同参画啓発出前授業に力を入れています」と話すのは、人権推進課の犬飼さん。今年度は女性の活躍推進事業として、大津町で起業を考えている女性を対象とした「プチ起業セミナー」を開催しました。仕事や就業に不安がある女性、育児や介護などで就労が困難な事情を抱える女性たち10数名が参加し、起業に向けての一步を学んでいます。

区長が審議会委員になることが多い同町では、まずは区長に占める女性の割合を増やすことが課題となっています。このため、町では女性区長を増やすことにも取り組んでいるそうです。

「今後は男性の家事育児参加や高齢者向けのセミナーなど、男女年齢問わずいろんな方に興味関心を持ってもらえるような取り組みを進めていきたいですね」と抱負を語ります。



女性の創業を支援する「プチ起業セミナー」も開催



小中学生向けの男女共同参画啓発出前授業の様子



「DV相談窓口では、相談内容に合わせて関係部署や機関につなぐなどの支援も行っています」と話す犬飼さん

「みんなが認め合い、支え合う、自分らしい生き方ができるー大津町」を目指して男女問わず興味関心を持ってもらう取り組みを4回目は、大津町人権推進課を訪ねました。

県内各市町村の男女共同参画の取り組みを紹介しました。

HiGO ROCKa Summit 2024 フォーラム&アワード

～新しい発見、出逢いは 未来を動かす～

女性の活躍を応援し、その両輪となる男性の家庭・地域参画を進めることを考える「HiGO ROCKa Summit (ヒゴロッカサミット)」を昨年12月21日、くまもと県民交流館パレアで開催しました(主催:熊本県、熊本県女性の社会参画加速化会議)。当日は163人が参加。パネルディスカッションでは、県内各地でさまざまな分野に挑戦する方々と木村知事を含めた6名が、誰もが住みやすい地域の在り方などについて意見を交わしました。(コーディネーター:MEGさん)

※女性が住みたくなるスタートアップ事業調査



(左から)木村知事、西村まりこさん(県女性の社会参画加速化会議副会長)、木庭理絵さん(株式会社スパークリング代表取締役)、宮川将人さん(有限会社宮川洋蘭/株式会社イノP代表取締役)、土屋望生さん(株式会社日添取締役)、吉川美加さん(山都町議会議員/くまもと女性議員の会事務局長)

住民が「幸せ」であることが
U・I・ターンを増やす鍵

2024年、民間有識者グループ「人口戦略会議」は「744の自治体で2050年までに20〜30代の女性が半減し、熊本県内を含む一部の自治体では『消滅』の可能性がある」と公表しました。

パネリストの一人、土屋望生さんが地域振興に取り組む五木村も、10年前の同調査で消滅可能性自治体に入っていました。しかし「収入を得て、楽しく過ごしているという事実があり、悲観する住民はおらず、むしろ『みんなで頑張ろう』という気運が高まりました」と話します。他のパネリストからも、U・I・ターン移住者を増やすには「住民が幸せに暮らすこと、その積み重ねが欠かせない」という声が上がっていました。

県内の若い女性が首都圏に出て行く背景には「男は仕事、女は家庭」といった男女の固定的な役割分担意識や交通の不便さが影響していることが、アンケート調査(※)から分かっています。

木村知事は県民と直接意見を交わす場で、子育て中の女性とも対話を重ね「政治や公共の場で声を上げる

男女の役割の固定観念をなくし
帰ってきたくなる熊本に

「今、輝いている人 今、挑戦し続けている人 “憧れびと”に話を聞こう」



ヒゴ ロッカ サミット 「HiGO ROCKa Summit 2024 プレサミット」開催

「HiGO ROCKa Summit 2024フォーラム&アワード」の同日、大学生などの若年層を対象とした交流会「プレサミット」がパレアで開催され(主催/熊本県、熊本県女性の社会参画加速化会議)、県内大学生や高校生の26人が参加しました。

パネリストとして登壇したのは、県内のさまざまな分野で活躍する若手社会人。井手上美波さん(菊陽町総務部)、浦ちさとさん(株式会社大同リース営業部)、坂口史乃さん(株式会社Lintukotoユースセンター事業部)、高場大貴さん(九州電設株式会社くらしのドクター事業部)、竹村寿美礼さん(一般社団法人フミダスコミュニティマネジメント事業部)の5人。

それぞれが、今の仕事を選んだきっかけや働き方、やりがいなどについて熱く語りました。(ファシリテーター:水野直樹さん)

その後は、5つのグループにパネリストたちがかわるがわる加わるワールドカフェ形式で意見交換会が行われました。参加者からは「休みの日はどんな過ごし方をしているの?」「就職活動で優先するポイントは何?」などさまざまな質問が寄せられていました。最後には、パネリストからの「社会人になるとできなくなることもあります。やりたいこと、興味のあることを見つけて、学生の時にしかできない経験をしてほしい」というエールに、参加者のみなさんも目を輝かせていました。



木村知事は「U・I・ターンした人も含め、多様な意見を取り入れることは、男女共同参画社会の実現にプラスになります」と強調しました

くかった若い世代や女性、障がいがある方々がもつと前に出て行ける仕組みの必要性を感じた」と言います。また、若い女性が熊本に帰ってきたり、身近な場で多様な人々が認め合い、協力し合うインクルーシブ(包括的)な姿勢を育むことが大事」と強調しました。

山都町で初の女性議員として現在3期目の吉川美加さんは、「女性が意思決定の場に出て、女性や親の視点で発言することが、多様な人が生活しやすい地域につながると実感しています」と語りました。さらに、県女性の社会参画加速化会議副会長の西村まりこさんは「地域で女性の力を



©2010熊本県くまモン

(左から)くまモン、池田眞智子さん(天草さくら助産院院長)、竹内裕希子さん(熊本大学大学院先端科学研究部教授)、長友美波さん(お菓子の国あん・さんくパティシエール)、前田美順さん(バドミントン元日本代表選手)、宮崎和代さん(株式会社宮崎工業代表取締役)、森田弘子さん(モリチク/有限会社森田竹材店取締役)、木村知事(令和6年12月21日撮影)

HiGO ROCKa アワード2024

授賞式も行われました

男女共同参画の実現に向けて活躍している人々の取り組みに対して、木村知事から表彰状を授与しました。

最大限に生かせる環境を、みんなが考え続けていきたい」と締めくくりました。

地域の可能性を広げていく鍵は、女性をはじめとした多様な人々が意思決定の場に関わり、声を上げること。熊本の未来を照らすヒントが詰まったフォーラムとなりました。